

アフリカの変化とTICAD9

日本は「共創」を掲げ続けられるか

- ・「革新的解決の共創」を掲げたTICAD9。「援助から投資へ」「投資から課題解決へ」の流れを加速できるか。
- ・ビジネスを主体に、アフリカの社会問題解決を図る
- ・ODA改革で民間資金動員の促進が可能に
- ・「Youth TICAD」を通じ若い世代の関与促す

「教えに來たものではありません。習いに來たのです。」

ガーナで黄熱病研究に取り組んだ野口英世の言葉を引きながら、石破茂首相は、8月20日に横浜で行われた第9回アフリカ開発会議（TICAD9）開会式で、アフリカ各国の首脳に呼び掛けた。TICAD9は「革新的解決の共創、アフリカと共に」をテーマとしたが、アフリカで学びながら共に解決策を探った野口英世の言葉が、日本の姿勢を象徴的に表しているという意味合いであった。

世界の分断・対立がアフリカにも影を落とす

1993年の初開催以来、9度目となった今回のTICAD

国際協力機構（JICA）緒方貞子平和開発研究所上席研究員（開発協力戦略領域長）
阿久津謙太郎

あくつ けんたろう 米タフツ大学フレッチャースクール修了（法律外交学修士。専門は開発協力戦略、平和構築、アフリカ地域。JICAではアフリカの開発協力に長く携わり、南北スーダン、タンザニアに駐在。アフリカ部アフリカ第3課長、外務省、内閣官房などを経て現職。

ADは、アフリカをめぐる状況が激変する中で行われた。

遠藤貢・東京大学教授は、アフリカをめぐる国際関係に、どの国も圧倒的な影響力を行使できない現状を「薄い覇権」「薄い自由主義秩序」という概念で表しているが（本誌91号ほか）、第2期トランプ政権成立後の米国、およびそれを受けた欧州各国のアフリカへの対応は、それら西側諸国のアフリカへの関与をさらに「薄く」していると言える。

開発協力、中でも政府開発援助（ODA）への影響は深刻で、今年2月以降、米国国際開発庁（USAID）の事業は80%以上が停止され、7月には解体された。USAIDは保健分野で多くの事業を行っていたため、6月に英医学

誌「ランセット」に発表された論文では、これにより今後5年間で世界1400万人に死亡リスクが生じ、アフリカが最も深刻な影響を受けると予想された。欧州でも、英国は防衛予算増を理由にODA予算削減を今年2月に表明し、独、仏、スイスなども削減を計画・実施している。経済協力開発機構（OECD）開発援助委員会（DAC）が6月に行った報告では、DACドナー（西側諸国）の2025年のODA総額は前年比9〜17%減と予測され、中でもサハラ以南アフリカ向けODAについては16〜28%の大幅減と、過去20年間で最も低い水準になる恐れがある。

貿易面でも、今年4月に発表された米国の相互関税で世界最高税率50%を課されたレソト（8月に15%へ引き下げ）をはじめ、アフリカの多くの国に15%以上の税率が課された。これまで米国アフリカ成長機会法により特惠関税（0%）を享受してきた国々にとって、その影響は大きい。このように西側諸国が相対的にアフリカへの関与を「薄く」する中、中国は今年5月にアフリカ各国からの輸入関税を0%にすると発表し、またいくつかの国にはUS AID 解体を受けて支援拡充を打診したとの報道もあり、関与を深めている。ロシアも、サハラ砂漠南縁のサヘル地域などでフランスに代わり影響力を強めている。

翻ってアフリカ各国は、アフリカ開発銀行が今年5月に発表した「アフリカ経済見通し」によれば、今年のGDPの成長率は平均3・9%（うち21カ国では5・0%超え）、26年は4・0%と、上述の米国関税政策の影響などによる下方修正を織り込みつつも、多くの国でなお堅調な経済成長が見込まれている。また、高い人口増加率により30年には世界人口の20%、50年には25%に達し、中長期的には世界経済の中心的な市場になると予測されている。

一方で、気候変動の影響と見られる干ばつや洪水の頻発、都市化の拡大、若年人口の爆発的増加（現在の年齢中央値は19歳）と雇用不安の拡大など、アフリカをめぐる社会課題はいっそう複雑化している。前述のサヘルや「アフリカの角」をはじめ、依然として紛争の続く地域も複数ある。まとめれば、世界に広がる分断・対立あるいは無関心がアフリカにも影を落とす中、将来の発展に向けてどのような社会課題の解決を図るかが急務であると言える。

TICADが果たしてきた役割

西側諸国がアフリカへの関与を「薄く」している状況は、日本がTICADを開始した1990年代初頭と重なる。TICAD立ち上げの経緯については、白戸圭一・立命

館大学教授による外務省幹部のオーラルヒストリー（「フ
ォーサイト」所収）に詳しい。冷戦終結後の1990年代
初頭は、西側諸国の対アフリカODAが、それまでの東側
への対抗という意味を失って急減した時期であった。そう
した中、南アフリカ・デクラーク政権のアパルトヘイト政
策廃止に伴い、日本は南ア制裁を解除すると共に、アフリ
カへの協力を全体的に強化しようという狙いの下、91年に
TICADの構想が発表され、93年に第1回が開催される
に至った。以来、5年ごとに日本で、そして2016年か
らは3年ごとに日本・アフリカ交互で開催されてきた。

アフリカ諸国の「オーナーシップ」と国際社会の「パー
トナーシップ」を掲げて始まったTICADは、回を重ね、
「人間の安全保障」（TICAD3）、「援助から投資へ」（同
5）、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」（同6）
などの重要政策を包含していった（筆者も、08年のTIC
AD4から、直接・間接にTICADに携わってきた）。そ
うした中、各国もアフリカへの関心を高め、今や、いわゆ
る「アフリカ＋1」サミットは、前掲の遠藤教授論考にあ
るとおり、中国、韓国、インド、インドネシア、イラン、
トルコ、南米、ロシア、イタリア、ドイツ、フランス、英
国、欧州連合（EU）、米国と多数の枠組みが存在してい

る。対してTICADは最初期に開始され、他国のアフリ
カへの関与が「薄い」時代に関心を喚起したフォーラムで
ある。また基本的には2国間の枠組みであるほかのサミッ
トと異なり、共催者として国連、国連開発計画（UNDP）、
世界銀行、アフリカ連合委員会（AUC）も加わり、パー
トナー国や民間企業も参加するマルチ枠組みである点や、
閣僚級会合と組み合わせたフォローアップメカニズムを持
つ点に、今も特長・強みがあると言えるだろう。

TICAD9の意義を再確認する

今回のTICAD9の意義はどこにあったのか。

TICAD9は、AU資格停止5カ国を除くアフリカ49
カ国全てが参加し（うち首脳級33名）、本会合に加え、各国
首脳や閣僚も登壇する200件以上のテーマ別イベントの
実施（全体参加者数は不明だが、JICA主催分44件のみ
でも約1万人が対面・オンラインで参加）、194社・団体
によるビジネスエキスポの開催（約1万人が対面参加）、さ
らにアフリカ・日本の政府・民間企業などの間で、今後の
協力に関し324件もの合意文書が結ばれるなど、過去最
大規模となった。筆者も2国間会談やイベントに参加・登
壇したが、肌感覚としても、過去に比べいっそう賑わった

と感じた。このように量的・規模的には大きな成功だったが、質的な意義としては以下4点が挙げられよう。

① 国際協調主義の強化

第1に、国際環境の変化で述べたとおり、西側諸国が相対的にアフリカへの関与を「薄く」している現状下、日本としてTICAD9の開催を通じ、国連・世界銀行など国際機関を巻き込みつつ、アフリカへのコミットメントが変わりなく、むしろいっそう強化されることを対外的に示した。これは、自国第一主義に対する国際協調主義の重要性を示したものであり、世界に分断・対立、あるいは無関心が広がるこのタイミングにおいて、TICAD9を開催すること自体にまず大きな意義があったと考えられる。

② 援助から投資へ、そして投資から課題解決の共創へ

第2の意義は、TICAD9のテーマ「革新的解決の共創」に見られるとおり、これまでの「援助から投資へ」というTICADの流れをさらに発展させ、「投資から課題解決へ」、すなわちビジネスを通じた社会課題解決を目指す（公的部門はその後押しをする）、そしてそれを「共創」、多様な主体で共に創り上げていくという、アフリカとの新

たな協力の在り方を明確に示したことが挙げられる。

前述のとおりアフリカの社会課題は複雑化しており西側諸国のODA予算削減は避けられない中、公的部門ではなく民間部門こそが主役であり、ビジネスの活躍によってアフリカ社会課題の解決を導く、そうする中でビジネスも発展し、アフリカの成長を日本経済に還流できる——こうした方針がいっそう明確になったTICADであった。

TICAD9で日本政府が打ち出したイニシアティブで最も注目を集めた「新経済圏構想」（インド洋・アフリカ経済圏イニシアティブ）は、こうした考え方を具現化したものと言える。日本企業がインドや中東・アフリカ各国の企業と共に、ビジネスを通じてアフリカの社会課題解決に取り組む（日本の国際収支上も、既に日本企業は貿易よりも海外投資で収益を上げており、さらにそれを海外で再投資している）、それを域内外の連結性強化や同志国連携で日本・各国の政府が支える、こうした構想となっている。

③ 民間の課題解決を支える新たなODA

次に、前述の第2の意義を支えるものとして、日本の新たな開発協力が示された点を指摘したい。

時系列的には、前回TICAD8の翌年（2023年）

に、日本のODAの基本方針を示す「開発協力大綱」の改訂がなされ、世界の複合的危機解決に向け、新しい時代の「人間の安全保障」の柱として、さまざまな主体との「連帯」強化が明記された。日本への還流も含めた途上国との「共創」が重要であり、これを戦略的に実現すべく、途上国に日本から能動的提案を行う「オフアー型協力」が導入された。さらに今年4月には、大綱改訂の理念を受け、国際協力機構法（JICA法）が改正され、ODAによって民間資金動員を促進するための制度改正が成立した。

TICAD9では、このような一連のODA改革の成果を具現化することが求められた。外務省幹部の言を借りれば、「逆説的にはTICAD9を念頭に置いてODA改革が進められてきた」。

こうした政策的要請を受け、アフリカの社会課題解決に向け、いくつかの注目すべき新ODAプログラムが発表された。いずれも前述の「新経済構想」に盛り込まれたもので、一つが「モザンビーク、マラウイ、ザンビアに対する広域オフアー型協力・ナカラ回廊開発によるグローバル・サプライチェーンの強化」であり、もう一つが「ナイジェリアに対するオフアー型協力・スタートアップ支援による社会課題の解決と経済強化」である。

前者は、豊富な資源を有する南部アフリカで、アフリカ各国の望む鉱物資源の高付加価値化や環境配慮と、日本の経済安全保障（鉱物資源確保）を結び付け、グローバル・サプライチェーンとしての国際回廊強化（連結性強化）と組み合わせたODA支援を行うもので、日本企業・現地企業との「共創」が前提となっている。後者は、アフリカ最大規模の人口と経済を持つナイジェリアで、社会課題解決に向けたスタートアップ育成を支援するもので、民間資金の呼び水としてODAを用いる新たな取り組み（「民間資金動員促進型無償資金協力」の初の事例）が含まれている。「新経済構想」以外でも、アフリカ開発銀行と日本の連携に今回初めて盛り込まれた「JICAアフリカインパクト投資イニシアティブ（IDEA）」は、前述のJICA法改正に伴い可能となった民間資金動員のためのファンド劣後出資を、アフリカ開発銀行との協調で行うものである。

④ユース（若者世代）をはじめとする多様な主体の参画

最後に、同じく「革新的解決の共創」につながる意義として、今回のTICAD9では、初めて「Youth TICAD」が正式開催され、ユースが共創のパートナーとして初登場した点を挙げたい。

のべ900名以上のアフリカ・日本の若者が6カ月にわたり議論してまとめた政策提言「ユース・アジェンダ2055」は、TICAD本会合に提出された。この中で、本会合での議論分野である「経済」「社会」「平和と安定」の三つに加え、横断的要素として「人と人との繋がり」「サステナビリティ」に着目した提言がなされている。閉会式のスピーチに立った石破首相は、YouthTICAD代表者のデイビッド・ポンデウ氏と休場^{やすみば}優希氏に特に呼びかけて謝意を示した。

YouthTICAD以外でも、今回のTICAD9では「ABCD+YTICAD」として、従来からTICADで強調されてきたD（開発）、B（ビジネス）に加え、A（アカデミア）、C（文化）、そしてY（ユース）と、TICADの地平を広げる取り組みがなされた。中でもC・TICADでは、ダイバーシティ（障がい主流化）、文化遺産、アート、音楽など、これまでのTICADでは十分議論されて来なかった分野でのテーマ別イベントも開催され、若者世代を含む多様な参加者が集った。既存の関心層以外の人々をTICADプロセスにいかに巻き込んでいくかは、これまで以上に重要な課題となっており、こうした取り組みの継続が望まれよう。

TICAD10に向けて「共創」を進める

『伸びる市場アフリカ』に出遅れてはいけません」（加留部淳・経団連アフリカ地域委員長、本誌91号）。「いずれアフリカ市場をめぐる競合はかなり激しくなるだろう。（中略）日本企業はコスト・オブ・インアクション（何もしないことのコスト）に目を向けるべきだ」（井出達也・経済同友会中東アフリカ委員長、日本経済新聞8月3日付）

TICAD9では援助から投資へ、投資から課題解決の共創へと新たなアジェンダセッティングがなされ、その主体として期待されているのは日本企業をはじめとする民間部門である。両経済団体のアフリカ責任者が揃って述べている通り、今こそ日本企業はアフリカ進出を真剣に検討すべき時である。次回TICAD10（2028年）では、さらに多くの日本企業の共創に期待したい。

最後に、YouthTICADのあるメンバーが年長世代に宛てたメッセージを引用して、本稿を終えたい。

「世界だけでなく日本でも分断が広がる難しい状況で、ともすればユースも声を上げづらくなっています。年長世代には、後に続くユースに『背中を見せる』形で、分断を超えてアフリカとの共創を掲げ続けてほしいと思います」